

# 2017年3月期第1四半期 決算概要

2016年8月8日（月）  
株式会社 **力ネカ**

# 目 次

---

業績概要	1
四半期別 売上高・営業利益	2
セグメント別 売上高・営業利益	3
セグメント別 事業概況	4
業績予想	8

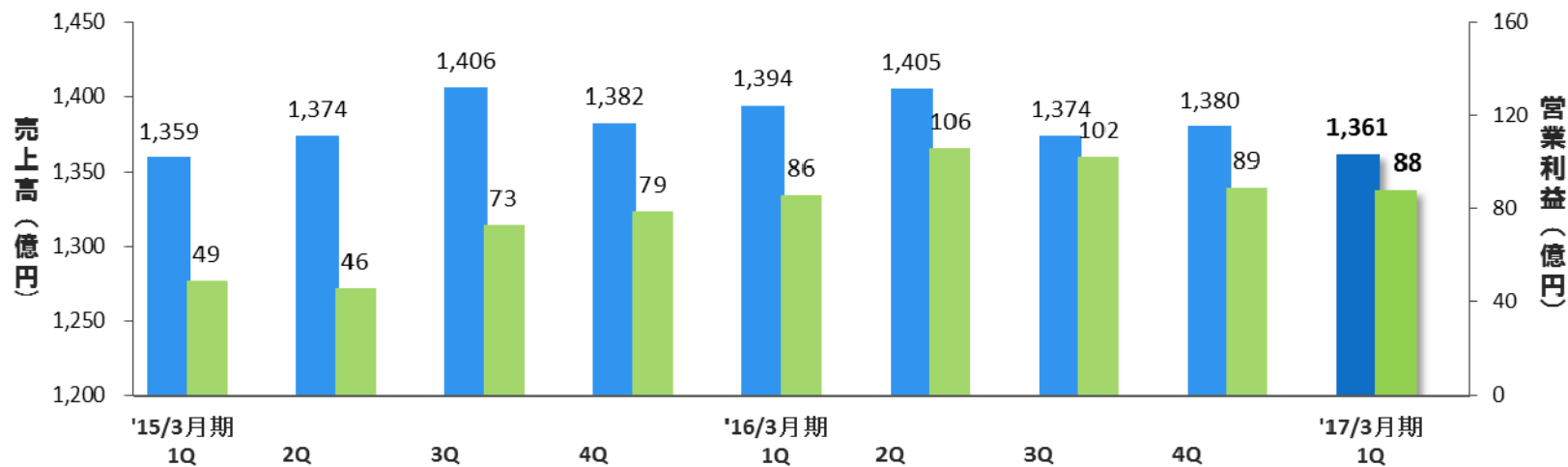
本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(単位：億円)

	2016年3月期 1Q	2017年3月期 1Q	増減	
			金額	%
売上高	1,394	1,361	△ 33	△2.4%
営業利益	86	88	2	2.0%
経常利益	80	71	△ 9	△11.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	52	46	△ 5	△10.7%
1株当たり四半期純利益	15.38円	13.87円		

- 営業利益は、付加価値の高いスペシャリティ製品の拡販が進み、販売数量の増加と高スプレッドの確保により+2.0%の増益。売上高は、円高や原料市況の影響を受け2.4%の減収。
- 経常利益、四半期純利益は為替差損の計上が響き減益。
- 事業構造改革による競争力強化が順調に進んでおり、スペシャリティの高い主力製品の数量拡大基調が続き、数量増とスプレッドを確保することで円高のマイナス影響を吸収している。

# 四半期別 売上高・営業利益



(単位：億円)	2015年3月期				2016年3月期				2017年3月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
<b>売上高</b>	1,359	1,374	1,406	1,382	1,394	1,405	1,374	1,380	1,361
<b>営業利益</b>	49	46	73	79	86	106	102	89	88

- 合成繊維、機能性樹脂、ライフサイエンスなどのスペシャリティの高い製品の拡販により円高の影響を吸収し、営業利益は前年4Q並みの水準で推移。

# セグメント別 売上高・営業利益

(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	2016年3月期 1Q	2017年3月期 1Q	増減		2016年3月期 1Q	2017年3月期 1Q	増減	
			金額	%			金額	%
化成品	26,995	22,926	△4,069	△15.1%	1,329	1,933	603	45.4%
機能性樹脂	23,683	27,164	3,480	14.7%	3,610	3,744	133	3.7%
発泡樹脂製品	16,578	15,384	△1,194	△7.2%	1,338	1,271	△66	△5.0%
食品	35,283	36,326	1,043	3.0%	365	901	535	146.5%
ライフサイエンス	14,586	15,036	449	3.1%	2,543	2,845	301	11.9%
エレクトロニクス	10,335	8,045	△2,289	△22.2%	141	△585	△726	-
合成繊維、その他	11,911	11,175	△735	△6.2%	4,025	3,932	△93	△2.3%
調整額	-	-	-	-	△4,746	△5,262	△515	-
計	139,374	136,058	△3,316	△2.4%	8,607	8,779	172	2.0%

- 機能性樹脂・ライフサイエンスは、販売が好調に推移し増収増益。セメダイン社の連結化も寄与。食品は、事業構造改革が進み増収増益。
- 化成品は、塩ビ系特殊樹脂の販売の拡大等により収益力が向上し増益。売上高は原料価格下落の影響を受け減少。合成繊維は、円高の影響を受けたものの販売堅調により利益は前年並み。
- エレクトロニクスは、全般的にスマートフォン市場などの需要低迷の影響を受けた。太陽電池は、引き続き事業構造改革を進め採算が改善。

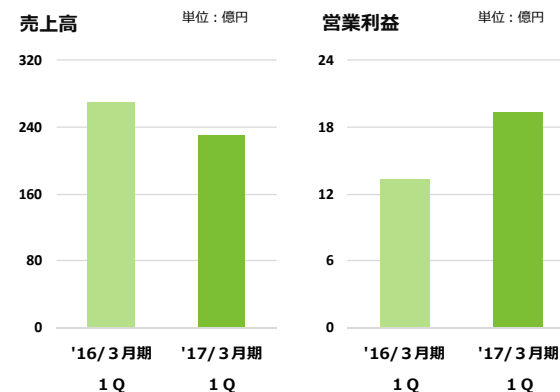


## 化成品

売上高 229億円 (対前年同期 15.1%減) ↓

営業利益 19億円 (同 45.4%増) ↑

- 塩化ビニール樹脂は、原料価格下落の影響を受け売上高は減少したが、インドなどアジア向け販売が増加し収益が改善。
- 塩ビ系特殊樹脂は、塩ビペースト樹脂のアジア向け需要や塩素化塩ビの米国向け需要など海外市場での販売が堅調に推移。
- か性ソーダは、国内需要が低調に推移する中、コスト低減に努め採算が改善。

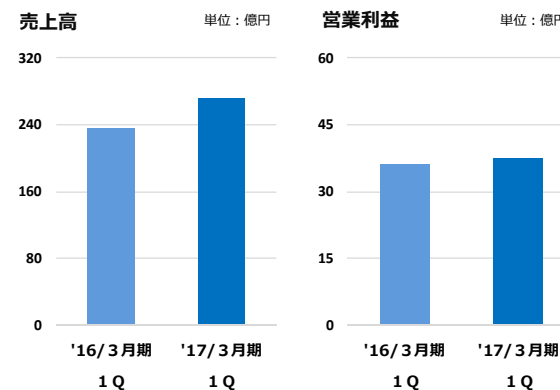


## 機能性樹脂

売上高 272億円 (対前年同期 14.7%増) ↑

営業利益 37億円 (同 3.7%増) ↑

- モディファイヤーは、製品差別化力の向上と非塩ビ用途向けなど新製品の拡充をグローバルに進めた結果、欧州・米国・アジア市場での販売数量が着実に増加。
- 変成シリコンポリマーは、オンリーワン製品としてユニークな品質特性への評価が高く、建築用途などでの他素材からの置き換えも進み、国内・海外市場ともに販売数量が順調に増加。セメダイン社の連結子会社化も寄与。

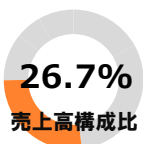
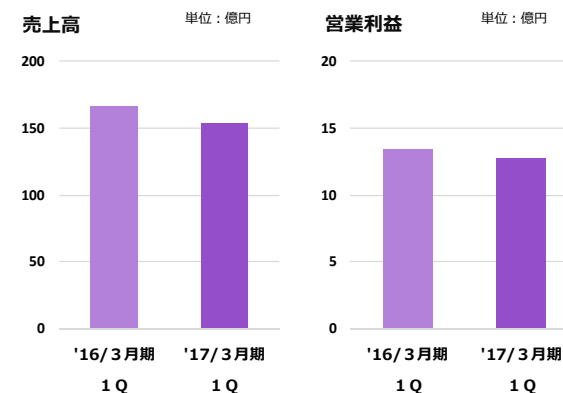




## 発泡樹脂製品

売上高 154億円 (対前年同期 7.2%減) ↓ 営業利益 13億円 (同 5.0%減) ↓

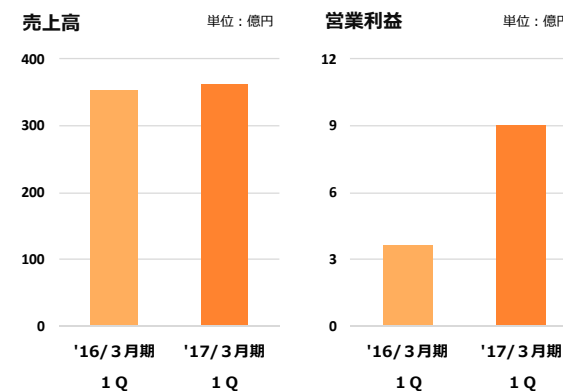
- 発泡スチレン樹脂・成型品は、農水産分野における需要低調の影響を受けた。
- 押出法発泡ポリスチレンボードは、住宅関連市場が緩やかながら回復してきており、販売は堅調に推移。
- ビーズ法発泡ポリオレフィンは、海外市場での自動車分野向けの需要が伸び悩んだ。

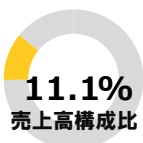


## 食品

売上高 363億円 (対前年同期 3.0%増) ↑ 営業利益 9億円 (同 146.5%増) ↑

- 国内需要の伸び悩みと低価格志向が継続する中で、消費者のニーズを先取りした新製品の開発・販売に注力し、製品ミックスの高付加価値化を進めている。
- グループ会社を含めたサプライチェーン全体の強化・効率化を目指した事業構造改革が進み、収益性が改善。

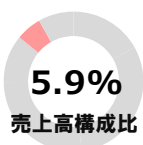
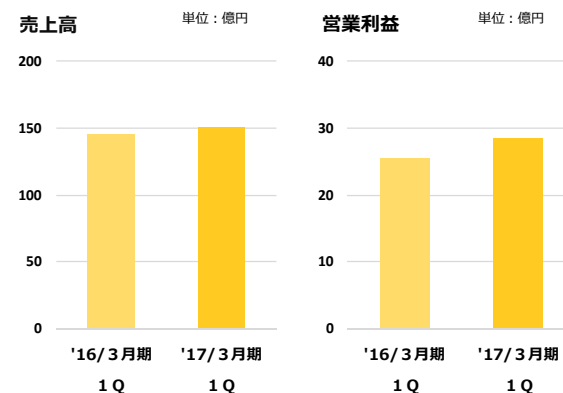




## ライフサイエンス

売上高 150億円（対前年同期 3.1%増）▲ 営業利益 28億円（同 11.9%増）▲

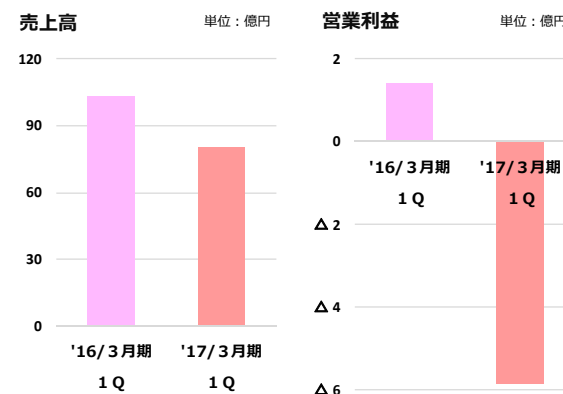
- 医療機器は、インターベンション事業において国内市場での償還価格改定の影響を受けたが、欧米市場における他社との共同事業などに取り組み、販売は拡大。また、消化器内治療など新領域への事業拡大にも注力。
- 医薬品は、APIやバイオロジクス分野における販売が順調に拡大。
- 機能性食品素材は、最大市場である米国を中心に全拠点において還元型コエンザイムQ10の販売数量が増加。また、日本では機能性表示食品制度のスタートにより当社製品の認知が進み、販売が拡大。



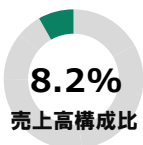
## エレクトロニクス

売上高 80億円（対前年同期 22.2%減）▼ 営業損失 6億円 ▼

- 超耐熱ポリイミドフィルム、超高熱伝導グラファイトシートは、高機能品や新製品の市場開発を積極的に進めたが、一般的にスマートフォン市場などの需要低迷の影響を大きく受けた。
- 太陽電池は、引き続き事業構造改革を進め採算が改善。また、世界最高レベルの変換効率を誇るヘテロ接合技術を用いた新製品や高性能品の販売拡大に注力するとともに、ネット・ゼロ・エネルギーハウスの実現に貢献するソリューションの提供に取り組んでいる。





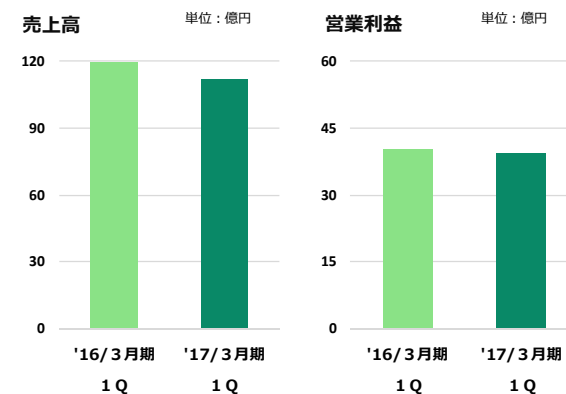


## 合成繊維、その他

売上高 112億円（対前年同期 6.2%減）↓

営業利益 39億円（同 2.3%減）↓

- 円高進行の影響を強く受けたが、アフリカ市場での頭髮分野向けの販売が引き続き堅調に推移するとともに、高付加価値品の拡販やコストダウンに努めた。
- マレーシアにおける新工場は本年7月に商業運転を開始。



- 連結業績予想に変更はありません。
- 6月下旬の英国のEU離脱決定を契機に更なる円高が進むなど、事業環境は厳しさを増していますが、需要は堅調で原料価格も安定しており、付加価値の高い製品群の拡販が進むことから、2Qは対1Q比で売上・利益ともに拡大する見通し。

## <参考> 2016年5月12日公表の2017年3月期連結業績予想

(単位：億円)

	2016年3月期実績		2017年3月期予想		増減	
	2Q累計	通期	2Q累計	通期	2Q累計	通期
売上高	2,798	5,552	2,800	6,000	2 (0.1%)	448 (8.1%)
営業利益	192	382	180	420	△ 12 (△6.2%)	38 (9.9%)
経常利益	158	330	160	380	2 (1.2%)	50 (15.0%)
親会社株主に帰属する当期純利益	99	210	100	230	1 (0.9%)	20 (9.6%)

【2017年3月期 前提条件】 為替レート：110円/米ドル、120円/ユーロ 国産ナフサ価格：40,000円/KL

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

